

ナ はよみがえるか

変わる葬儀

1

「終活に关心を持つて」と、遺書の書き方などを
いても、実際に遺言書や熱心に学んでいた。個別
事前の葬儀社の手配など)の相談会でも積極的に質
の準備になると「戻込み」をしていました。しかし、相
してしまって人が多い」と、談員が今のうちに公正証
話すのは、NPO終活サ
ポートセンターの水上由
輝徳理事(38)。「死につ
いて考えたくない」など、「まだ元気だから、そ
う思いが根底にある」と
と断った。

水野理事は多くの人
同センターが主催するは、自分はまだ死なない
終活大学の相続に関すると思つてゐる。本当に身
セミナーに出席した70代 近な出来事として死にう
後半の男性は、息子たち いて考えたいとは思つて
に迷惑を掛けたくない いない」と話す。

死後の世界

魂は残つて遺族見守る

仏教の世界観に救われた

言つ。
同センターが主催する「多くの人
は、自分はまだ死なない
終活大学の相続に関する
セミナー」に出席した70代後半の男性は、息子たちについて考えたいとは思つて
いる。本当に身
に迷惑を掛けたくない
いない」と話す。

し、余命2、3週間と宣うと思つ。終活大学では死告されていた。世話をし後世界などについての話はしない。死後の世界で倒れているのが見つかつた。脳出血だった。手もいいかな」と言つたが、1ヵ月後に「友人・知人には来てほしいな」と本音を漏らした。昨年には同じく亡くなつた。居していた父親が90歳でた。

トやテレビゲームが好きだった。何げない雑談の中で男性はふと「あー、寺院の檀家の女性(64)は死にたくないな」とつぶ「若い時には魂なんてなういった仏様と出会い、教の役割ではないか」と指摘する。

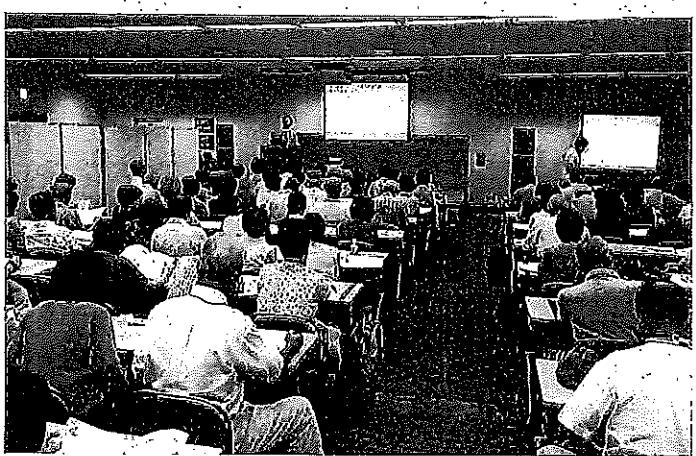
千葉県の真言宗豊山派、「菩提寺の法事では住職が、年忌には故人がど

死去した。

浄土宗東京教区教宣師会は6月10日、大本山増上寺(東京都港区)で自死者追悼法要「俱会一処」

「ともに生き、ともに祈り、ともに死んで遺族と接している小川のことを書く」を書んだ。遺族約70人が参加し、故人のたまごは、遺族の中には有閑・浄土宗蓮華寺住職(39)がいた。静かに手を合わせた。死した故人が死後、なつていているのか不安に感じている人が少なくない。

連載「寺はよみがえる
か」第1章「変わる葬儀」は池田圭、赤坂史人、丹治隆宏、田中貴之の各記者が担当しまし
た。第2章「檀家制度の危機」(仮)は9月中旬に開始します。



毎回、多くの人が参加する終活サポートセンターの終活大学

どうう。「自死者遺族の場合は、亡くなった人のことについても深い。死者のことについても考えてしまってどううしても考へてしまふのでしよう」